

**百日咳とは**

　百日咳は、その名前の通り、長期間「せき」が続く感染症です。「コンコンと激しく咳込んだ後、笛を吹くようなヒューという音で息を吸う症状」と説明されることが多いものですが、最近は予防接種によってある程度の免疫（抵抗力）があることから、典型的な症状がでにくくなっています。

潜伏期間と症状

7～10日の潜伏期間の後、通常の風邪様の症状に始まり、しだいに咳の回数が増え、夜間に咳で眠れない等の症状となります。そのうち、発作性の咳となり、息を吸うのも苦しくなります。小さいお子さんの場合、無呼吸発作をおこして重症化することもありますが、適切な抗菌薬治療で、症状は治まり回復します。

感染経路

百日咳菌を含んだ患者の鼻水やだ液が、咳やくしゃみ等で飛び散り、それを周囲の人が

吸い込んで感染する「飛沫感染」と、手を介した「接触感染」です。咳症状が出始めた発症早期から咳症状がでている間は感染力が強いです。

診　断

以前は、早期診断が困難でしたが、最近は百日咳菌の遺伝子を検出する検査や血液検査で感染が早期にわかるようになっています。

対　応

学校保健安全法では、学校感染症（第２種）として特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまでは出席停止です。

予　防

百日咳は高熱がでることが少なく、長引く咳＝「ただの風邪」と思われていることがあります。このため、咳が長引くなどの症状で受診し、診断がつく頃には家族や周囲の人に感染を広げてしまっていることがあります。

　周囲で百日咳と診断がついた人がいた場合、本人に風邪症状がある時は、医師に周囲で百日咳の患者がいたことを伝えて早めに診察を受けるようにしましょう。

また日頃から咳エチケットと手洗いをこころがけましょう。

ワクチン接種により乳幼児の百日咳は減少し、ワクチンによる免疫が下がってきた学童児や成人の患者が増えています。そして、ワクチン接種前の乳児にうつしてしまうことが問題となっています。感染拡大を抑えるためにも早期診断・早期治療が大切です。

作成：世田谷保健所感染症対策課

　　　　　　　03－5432－2441